

各教科等における 「令和2年度の重点」

「自ら考え、判断し、表現できる子供」を目指して

新学習指導要領では、子供たちに知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むため、育成を目指す資質・能力の三つの柱として「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養が示されました。

これらの資質・能力を育成するため、子供たちが学びの過程の中で、他者との協働を通じて自己の考えを広げ、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、自ら課題を見いだして解決策を考えたりするなど、各教科等の学習を「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善することにより、学校教育における質の高い学びを実現します。

徳島県教育委員会では、こうしたことを踏まえ、「確かな学力」において目指す子供を「自ら考え、判断し、表現できる子供」とし、その具体的な姿を「阿波っ子 学びのススメ10か条」に示し、「豊かな心」・「健やかな体」の育成との調和を図りながら、目指す子供の姿の実現を図ります。

育成を目指す資質・能力の三つの柱

- 生きて働く知識・技能
- 未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等
- 学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等

すべての教科等にわたる国語力を生かした授業改善のポイント (国語力向上タスクフォースの提案から)

本県の児童生徒に身に付けさせたい力

- ・ 文章の中心的な部分と付加的な部分、問題提起の部分と具体例、まとめの部分などを読み分けて要旨を捉えたり、問いの意図やその解決に至る経緯を正しく理解したりする力
- ・ 目的に応じて必要な情報を集めるための見通しをもって臨み、根拠として取り上げている内容が適切であるかどうかを吟味したり、また、その根拠が適切であるか理由が明確になるように自分の考えをまとめたり、表現上の工夫をしたりする力
- ・ 相手の意図を捉えたりしながら自分の考えを明確にもち、その考えを深めるために、場に合った適切な言葉遣いで話したり、書いたりしながら、互いに伝え合う力

正確に読み取らせるには！！

○ 何が書かれているかを的確に捉えよう！



主体的・対話的で深い学びの視点からは！！

- 自分の思いや考えを「書く」場面を増やそう！
- 自分の思いや考えを深めるために他者の意見を取り入れる場面を増やそう！
- 学んだことを振り返る場面を工夫しよう！

深い学びにつながる三つの発問は！！

- 別の言葉に言い換えてみよう。
- 比べてみよう。関連付けてみよう。
- そう考えた根拠と理由は何だろう。



小学校の各教科等の重点

外国語活動

目指す子供の姿

- 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。
- 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。
- 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実

- ◇コミュニケーションの目的・場面・状況を明確に設定し、児童が意欲的に活動できるよう工夫する。
- ◇児童の興味を引き、聞いたり話したりする必然性のある題材や場面設定となるよう工夫する。
- ◇既習表現を繰り返し使用する活動を多く設定し、聞くこと、話すことに十分慣れ親しませる。

②学習改善・指導改善につながる評価の工夫

- ◇単元全体を見通した評価計画を立て、授業中の見取りや振り返りカード等で児童の学習状況を把握し、個々の児童の学習の調整に向けた取組につなげる。

外国語

目指す子供の姿

- 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気づき、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けている。
- コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うとともに、音声で十分慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。
- 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実

- ◇コミュニケーションの目的・場面・状況を明確に設定し、児童が意欲的に活動できるよう工夫する。
- ◇指導者同士→指導者と児童→児童同士のように段階的にSmall Talkを取り入れ、既習表現を繰り返し使用する機会を多く設定することで、既習表現や対話を続けるための表現の定着を図る。
- ◇語句や表現を読んだり書いたりする活動は、音声で十分慣れ親しんだ後に設定する。

②学習改善・指導改善につながる評価の工夫

- ◇単元全体を見通した評価計画を立て、授業中の見取りや振り返りカード、パフォーマンステスト等で児童の学習状況を把握し、個々の児童の学習の調整に向けた取組につなげる。